

バチカンの主な動き（2013年）

1. 国内政治

- (1) 2013年は、2月にベネディクト16世の史上600年振りの辞任を受け、3月に欧州圏以外のラ米のアルゼンティンから初めて選出された新法王フランシスコが就任するというバチカンにとっては画期的な年となった。
- (2) 法王フランシスコは、斬新な統治スタイルを打ち出し、常に貧者、弱者に目を向けた発言をし、またその類い希なコミュニケーション能力とも相俟って、世界的な人気を博するに至った。右はフランシスコ効果とも形容され、一般市民のカトリック再評価等の諸現象を生んでおり、米タイム誌も法王を「年の人」に選出した。
- (3) 新法王は、中央集権的、欧州中心的なバチカンを、時代に即したバチカンに改革するために8人の枢機卿からなる枢機卿顧問団を立ち上げ、バチリークス、バチカン銀行等のスキャンダルで沈滞したバチカンに新しい風を吹き込んでいる。

2. 対外政策

- (1) 初法王フランシスコの世界的人気から国際メディアもその発言を頻繁に報道。現在バチカンの発するメッセージの重要性はカトリック世界の壁を越えたとされ、また、かかる事情を背景に各国指導者によるバチカン詣でに拍車がかかっている。
- (2) バチカンは、平和の探求、経済開発、人権の確立、環境の保護等多くの国際的課題に対し、世俗的な利益にとらわれない「良心の声」としての役割を果たして来たが、法王フランシスコは、これまでになく外交面で貢献しようとしている。特にランペドゥサ沖で欧州を目指した北アフリカ難民が大量に死亡した際や、2013年8月の法王による対シリア軍事介入反対声明は、国際世論に無視しえな

い一定の影響力があつたと見られている。

- (3) 初の非欧州出身法王として、アジア、アフリカ、ラ米地域に対する強い関心を示しているが、2013年の外遊はブラジルにおける世界青年祭の出席に止まった。

3. 我が国との関係

- (1) 2013年3月の法王の就任式には、森元総理大臣が特派大使として出席した。また、タークソン正義と平和評議会議長が広島、長崎を訪問した他、ファリーナ枢機卿が法王特使として、上智大学創設100周年行事に出席のため訪日した。
- (2) 文化行事では、パチカンの国際音楽祭に西本智実氏の指揮の下、総勢300人以上の合唱団が参加した。